

New Simple Step 公衆衛生 正誤表

本書の記載内容に誤りがございました。

訂正させていただきますとともに、謹んでお詫び申し上げます。

株式会社 総合医学社

第1版第1刷

該当箇所	誤	正
70 頁 イラストの旗	10	11
73 頁 上から 13 行目	出生率は減少する一方	出生 数 は減少する一方
84 頁死亡順位総数のイラスト	3 位 肺炎	3 位 老衰
94 頁 上から 2 行目	推計患者数	総患者数
95 頁 上から 11 行目	僅差で”	僅差で
106 頁 下から 9 行目	患者数が最も多いのは潰瘍性大腸炎で、パーキンソン病がこれに次いでいます。	患者数（ 受給者証所持者数 ）が最も多いのは パーキンソン病 で、 潰瘍性大腸炎 がこれに次いでいます。
182 頁 上から 11 行目	間接産科死亡	間接産科的死亡
221 頁 下から 3 行目	一般的介護予防事業	一般介護予防事業
223 頁 表 12	66～74 歳	65～74 歳
242 頁 上から 11 行目	療費	医療費
251 頁 上から 4 行目	わが国の感染症による死亡数の中では最多（2,204 人）です。	わが国の感染症による死亡数の中では、インフルエンザなどとならんで、最多のグループに属します。
278 頁 上から 5 行目	男女とも 1 歳以降の全年齢	男女とも 1 歳以降 49 歳まで
317 頁 図 2 タイトル	労働災害による死者数の推移	労働災害による死者数 および休業者数 の推移
321 頁 上から 11 行目	触媒して	触媒として
327 頁 上から 11 行目	C ₆ H ₆ C ₂ H ₃	C₆H₅C₂H₃
329 頁 下から 2 行目	マゼンダ	マゼンタ
337 頁 上から 17 行目	ゆっく減圧	ゆっくり減圧

New Simple Step 公衆衛生 追補

本書の第1版第1刷の刊行後に法改正等の変更があった部分を補足いたします。

該当箇所	第1版第1刷の掲載内容	新しい情報（追加の説明）
48 頁 下から 5 行目	なお、新しいデバイスの場合には、二重盲検試験は困難です。	なお、新しいデバイスの場合には、二重盲検試験は困難です（例えば、PCI を行う際に、ステントを留置するのが一般的ですが、10 年くらい前に薬剤含有ステントが開発されました。従来のステントとは形状が異なるので、術者は自身が用いるのがどちらかわかってしまいます。また、消化管のステントも何度も形状が変更になっていますが、それも旧タイプか新タイプかは一目瞭然です。したがって、二重盲検試験は困難です）。
185 頁 参考	出産育児一時金の金額、産科医療補償制度の保険金について	産科医療補償制度が改正されており、2022 年 1 月から掛金（保険金）が 1 万 2 千円となりました。また、この 4 月 1 日から出産育児一時金が 50 万円となり、双子だと 100 万円となりました。詳細は、（公財）日本医療機能評価機構の産科医療補償制度のHPをご覧ください。
259 頁 上から 17 行目	なお、2020 年 2 月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が指定され、2 類感染症と同等の措置がとられます（指定後 1 年以内に 2 類感染症となる予定です）。	なお、2020 年 2 月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が指定されましたが、法改正により、2021 年 2 月からは COVID-19 は新型インフルエンザ等感染症の扱いとなっていました。2023 年 5 月 8 日から、新型コロナウイルス感染症は 5 類感染症となりました。季節性インフルエンザと同様、約 5 千の定点医療機関からの定点把握となります。学校の出席停止期間は、「発症から 5 日間が経過し、かつ症状軽快後 1 日を経過するまで」となります。

303 頁 上から 11 行目	そして現在は、2016 年度から 2020 年度までの 5 年間を期間とする第 3 次食育推進基本計画が実施されています。このこの第 3 次食育推進基本計画では、①若い世代を中心とした食育の推進、②多様な暮らしに対応した食育の推進、③健康寿命の延伸につながる食育の推進、④食の循環や環境を意識した食育の推進、⑤食文化の継承に向けた食育の推進、の 5 つの重点課題を柱としています。	そして現在は、2021 年度から 2025 年度までの 5 年間を期間とする第 4 次食育推進基本計画が実施されています。この第 4 次食育推進基本計画では、①生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進、②持続可能な食を支える食育の推進、③「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進、の 3 つの重点事項を柱としています。
-----------------	--	--